

1 月の安全運転ごよみ

1日（木）…元日 5日（月）…小寒 10日（土）…110番の日 12日（月）…成人の日
20日（火）…大寒 25日（日）…日本最低気温の日 26日（月）…パーキングメーターの日

1 月の安全運転目標

アルコールチェックを確実に実施しよう

アルコール検知器を用いた酒気帯び確認が義務化されてから2年が経ちましたが、皆さんの事業所では確実に実施されていますか？

毎日、アルコールチェックを確実に実施して、事業所から飲酒運転を根絶しましょう。

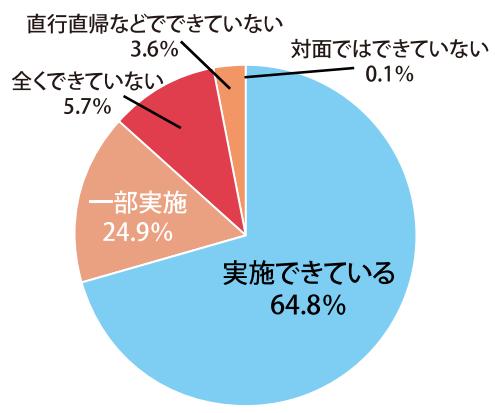


■ 事業所の約3割が不適切なアルコールチェックを実施

シャープ株式会社が、全国のアルコールチェック義務化対象企業の安全運転管理者1,146人に実施したアンケート調査によると、事業所の約3割が法令で定められたアルコールチェックの必須項目を満たしておらず、不適切なアルコールチェックを実施している実態が判明しました。

これは、多くの企業で直行直帰時の点呼確認や記録の保存といった運用体制に課題があるなど、点呼業務を負担に感じている事業所が少なくないことを示しています。

飲酒運転は重大な事故を招き、企業の信用を失墜させます。法令遵守はもちろん、社会的責任として、アルコールチェックの適切な実施と記録の徹底が必要です。



アルコールチェック義務化対応状況
「酒気帯び確認」(出典:シャープ株式会社)

○ 事 | 故 | 事 | 例



忘年会後に飲酒運転で事故。同乗者も罪を問われるおそれ

2023年12月31日午前5時ごろ、福岡県で忘年会後、飲酒した若手社員が運転する車が事故を起こし、同乗していた社長と他の同僚が重傷を負いました。飲酒運転を行った本人だけでなく、同乗していた社長・同僚も「飲酒運転帮助罪」での立件が視野に入れられ、警察の捜査対象となりました。

年始は飲酒の機会が増えますが、飲酒運転を行った者だけではなく、企業の管理者や同席者も、飲酒運転を黙認・容認してしまうと共に犯者となるリスクをしっかりと理解しておきましょう。



酒気残りを見落とさないために

前日の酒気残りが招く飲酒運転のリスク

飲酒運転は「飲酒直後」に限りません。アルコールは分解に時間がかかり、睡眠をとっても体内に残り続けます。そのため、翌朝の「酒気残り」による飲酒運転にも注意が必要です。

事業所では、運転前後の目視と検知器を使用した酒気帯び確認を確実に実施しましょう。

また、運転者には「眠ったから大丈夫」「二日酔いの症状はない」といった自己判断は非常に危険であることを理解させるとともに、「運転前日は飲酒を控える」といったことを指導しておきましょう。



アルコールの分解には時間がかかります

アルコール検知器に伴うトラブル対処方

飲酒をしていなくても、直前の喫煙や洗口液の使用、飲食物の残留により、検知器が誤反応するおそれがあります。検査直前の飲食等は避けましょう。誤反応が疑われる場合は時間を空けて、管理者立ち合いのもと、再検査を行いましょう。

一方、検知器には精度を維持するための寿命があります。定められた使用回数、期限を守るとともに、定期的に点検を実施・管理してください。故障や精度の低下は飲酒運転につながるため、予期せぬ故障に備え、予備の検知器を確保しておくことも重要です。



検査直前の飲食は避けましょう

管理者として
知っておきたい知識

アルコールチェックは安全運転管理者の業務

アルコールチェックの実施と記録・保存は、安全運転管理者の重要な業務の1つであるため、確実に実施しましょう。

アルコールチェックを怠った場合には安全運転管理者の義務違反と見なされ、是正措置が出される可能があり、適切な対応を取らなかった場合、50万円以下の罰金が科されることがあります。



安全運転管理者の業務として、アルコールチェックは確実に実施しよう